亀田ニュース

2021
No.960
4月15日号

●〒296-8602 千葉県鴨川市東町929　●TEL04(7092)2211㈹　●発行責任者 亀田隆明　●作成 広報企画室　●毎月1日・15日発行

2021年度 新規採用者は368人

医療法人鉄蕉会では2021年度新たに368人の新入職員を迎えました。

今年も新型コロナウイルス感染拡大防止のため，昨年同様，一堂に会する入職式は行わない判断となり，新入職員オリエンテーションについても各部署で少人数単位での研修に切り替えて対応しました。

新入職員には，メッセージ動画の形で，亀田隆明理事長，亀田俊明亀田総合病院長，亀田省吾亀田クリニック院長の3名より，お祝いの言葉とともに訓示が伝えられました。

新入職員の内訳は以下のとおり

＜鴨川事業所＞359人

医師95人(初期研修医24人，歯科研修医8人含む)
看護師167人，医療技術61人，事務労務36人

＜その他事業所＞9人

住所や電話番号 お変わりありませんか？

■登録変更手続きのお願い

新年度を迎え，就職や転勤，退職などで健康保険証が変わったり，転居で住所や電話番号の変更があった場合は，受付窓口にて登録変更手続きをお取りくださいますようお願いいたします。

当院から書類等を郵送する場合や，急ぎのご連絡をさせていただく際に，現在ご登録いただいている住所や電話番号が変更されていると，書類の受け渡しや電話連絡に支障をきたします。

お手数をお掛けいたしますが，何卒ご協力をお願いいたします。

《歯科センター》ゴールデンウィーク診療情報

■今年も急な口腔内トラブルに対応

亀田クリニック休診中の5月3日(月)・4日(火)・5日(水)の3日間，救命救急センター内に歯科医師が常駐して，口腔内トラブルに対応いたします。

夜間診療につきましても，日曜日を除く，毎日午後6時から翌朝9時まで，救命救急センター内に歯科医師が常駐いたします。ただし，通常診療ではなく緊急的な症状に対する応急処置となりますので，あらかじめご了承願います。

同期間中，急な歯痛や腫れなど口腔内トラブルでお困りの際は，まず電話でお問い合わせください。

■お問い合わせ先：04-7092-2211

《青山フラワーマーケット》母の日早期ご予約受付中！

5月9日は「母の日」です。日頃の感謝の気持ちを込めて，今年はお花をプレゼントしてみてはいかがですか？

使用する花は入荷により異なる場合があります

亀田クリニック1階の青山フラワーマーケットでは，現在，母の日アイテムのご予約を承っています。4月25日までに店舗で公式アプリをご提示のうえ税込3,300円以上の母の日商品をご予約いただいた方には，店舗・オンラインショップ共通で使用可能な500ポイントをプレゼントしています。

地方発送も行っておりますので，詳しくはスタッフまで気軽にお訪ねください。

《禁煙支援外来のご案内》

禁煙をめざす人のお手伝いをします

亀田クリニック「禁煙支援外来」では，禁煙をめざす人に対して，離脱症状を抑え，比較的楽に禁煙できるよう医師や看護師がサポートを行っています(健康保険等を使用した保険診療にも対応)。禁煙治療をご希望の方やご興味をお持ちの方は，電話または亀田クリニック総合受付で予約をお取りいただくか，かかりつけの診療科担当医師にご相談ください。

なお，入院後に開始した禁煙治療には健康保険等が適応されません。入院の予定がある方は，入院前に禁煙支援外来にご相談ください。

■予約センター：04-7099-1111
(8：00～17：00/日曜祝日除く)

第4話 「足の痛みねんざ外来」での治療とは？ その② エコーガイド下手術

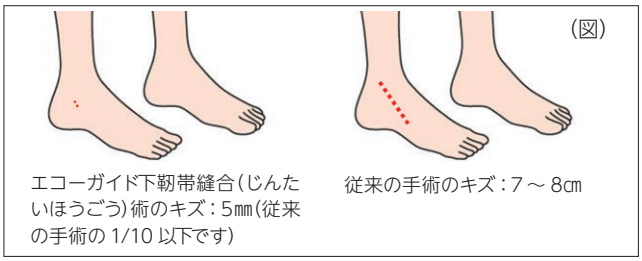
こんにちは，スポーツ医学科医師の服部惣一（はっとりそういち）です。「足の痛みねんざ外来」を担当しております。前回のコラムでは，「足の痛みねんざ外来」でどのような治療を行っているのかをご紹介しました。そこでは以前から行われてきたリハビリ治療やサポーターなどに加え，エコーガイド下での無痛注射治療について述べさせていただきました。これらの治療で90%の人は良くなるのですが，靭帯（じんたい）の緩さに由来する痛みが取れない場合やねんざを繰り返してしまう場合は，エコーを使った究極の低侵襲手術を行います。

第1回のコラムで詳述しましたが，そもそも留学を志したのはエコーを使った世界初の手術を開発するという目的がきっかけでした。その志をもってピッツバーグのDr. Richard Debskiの研究所（Orthopaedic Robotics Laboratory）の門を叩き，研究・開発の許可を得ることができました（写真1・写真2）。私が開発しようとしていたのは，わずか5mmのキズ一つを作って，緩んでしまった靭帯を縫合するという手術でした。従来の手術のキズが7cmでしたので，いかにキズが小さいかが分かると思います（図）。キズが小さいことは，痛みが少ないことや，創部感染や神経損傷のリスクを下げることにつながります。

写真1：研究所の外観

写真2：研究所のボス Dr. Richard Debski

ただこの手術の研究・開発は決して平坦な道のりではありませんでした。まずコロナ禍によって3か月もの間，研究所が閉鎖されました。2019年11月に渡米し，ピッツバーグでの新生活を始めました。子ども達を現地の学校に通わせ，私も研究所での生活を始めましたが，その生活に慣れてきた矢先の2020年3月にコロナ禍が始まりました。ピッツバーグ市はロックダウンとなり学校も休校となりました。研究所が再開したのは2020年6月半ばで，気がつけば当初の帰国予定であった7月20日まであとひと月と迫っておりました。



研究所が再開されるや否や急ピッチで実験を再開しましたが，新たな問題に直面しました。アメリカでは研究や開発のためにご遺体を用いることが認められており，私も提供いただいたご遺体を使って小さなキズ一つで緩んだ靭帯を縫合する手術の開発を行っておりましたが，新たな提供を受けることが難しくなったのです。そのため，先に提供いただいたものを少しも無駄にすることがないよう，繰り返し手術の開発に取り組みました。提供いただいたご遺体の約半数で靭帯が緩い状態となっていたことから，おそらく生前に足首をねんざしていたことがうかがえました。

ようやく手術の実験が最初に成功したのが，7月20日で当初の帰国予定日でした。この実験をあと8回繰り返し成功させる必要があったので，病院にお願いをして帰国予定を2か月間延長させていただきました。最後に直面したのが，インプラントが足りないという壁でした。日本ならばインプラントを供給する会社に頼めば，新しいものを直ちに持ってきてくれるのですが，アメリカではそうもいきません。8月の時点で「新しいインプラントが入るのは早くて3か月後…」と言われてしまい，「ああ，もうダメだ…」と思いました。これをDr. Debskiに相談したところ，「インプラントを再利用してはどうか？」と解決法を与えてくれ，必要な数の実験を2か月の間に成功させることができました。

医師紹介 大澤（おおさわ） 良介（りょうすけ） 医師

①担当科目
②診療における得意分野
③趣　味
④ひと言

①感染症科（部長）
②感染症全般，移植感染症，結核
③マラソン，トレイルラン，スキー，料理
④エビデンスと個人の経験に基づいた最善の医療を提供したいと考えています